

平成31年度（令和元年度） 学校自己評価 後期

※ 評価基準 5点（よくできた） 4点（できた） 3点（どちらともいえない） 2点（あまりできなかった） 1点（できなかった）

No.	分掌	重点 目標	評価項目・達成目標	成果指標(具体的な達成目標)	5	4	3	2	1	評価 平均	備 考
1	総 務	1	危機管理体制の充実を図る。	・各種危機管理マニュアルの整備と改善 ・マニュアルの徹底や訓練により、職員の危機管理意識を高める。	21.6%	66.7%	11.8%	0.0%	0.0%	4.1	・マニュアルの整備に取り組んだが、改善までには至らなかった。訓練を繰り返し、危機管理意識の啓発はできたが、毎回見直しを行ったため、徹底までは到達できなかったと思う。 ・防災意識が高まり訓練は具体化しているが、多様な災害に対応するには、さらなるマニュアルの作成・改訂と訓練が必要と考える。 ・各種訓練を通して、職員の共通理解を図れた。 ・防災訓練の際、マニュアル通りにほぼ対応できたと思う。 ・何度も検討されている、児童生徒分の防災ヘルメット（ずきん）を購入できていないから。（4月のPTA総会で確認し、早急に行動するべきだと思います。）
2		8	校内会議の効率化に取り組む。	・職員会議のペーパーレス化を推進する。 ・資料データや紙文書は、前日までに準備する。	35.3%	49.0%	13.7%	2.0%	0.0%	4.2	・回を重ねるごとに、共通理解が進み、職員会議の効率化は概ね達成できたと思う。 ・職員会議については当日にアップされたこともあるが、概ね前日に準備ができている。グループウェアは運用ルールを、より明確化する必要があると考える。 ・データを事前に確認でき、質問事項についても事前に起案者に確認することができた。 ・ペーパーレス化という点では、評価できる。会議が効率的になっているという実感はない。会議中議題を開かず、別の仕事をしている人もいる。
3	教 務	8	業務内容の移管をスムーズに進める。 ・個人情報保護 ・学校HP, ブログ	・管理情報部と連携して取り組む。	22.9%	50.0%	25.0%	2.1%	0.0%	3.9	・HPなど、現在進行中のものもある。 ・管理情報部にスムーズに移管できたと思う。 ・よく分からない。
4		8	業務内容を滞りなく推進する。	・業務内容を精選し、分担して遂行する。	25.0%	47.9%	25.0%	2.1%	0.0%	4.0	・大きな混乱がなかったように思う。 ・評価項目等が少し曖昧であったため。 ・教務部長は選任でお願いします。
5	生徒指導	3	交通ルール、マナーの意識向上を図る。	・各学部の安全学習、自力通学生の通学指導を定期的に行う。	8.3%	50.0%	35.4%	6.3%	0.0%	3.6	・立ち番などの指導もあり、事故等がないので達成していると思う。 ・同好会の顧問をすることで、通学生の登校指導およびマナー等の意識向上に努めることができた。 ・小学部の学習としては難しい。年1度の交通安全学習と、校外学習等の行事の時にしか指導できない。 ・どうなされているかが見えていない。
6		3	全校朝会、代議員会や生徒会行事で、生徒が主体的に活動できるようにする。	・全校朝会や代議員会などの行事で、生徒会役員が、シナリオをたよりに自分で考えて会の進行を行う。	29.2%	58.3%	12.5%	0.0%	0.0%	4.2	・毎回、工夫をこらした全校朝会が行えていた。 ・どの児童生徒にも平等に機会が与えられている。 ・全校朝会の係や代議員会に出席することで、高学年という自覚につながっている。
7	進路指導	4	卒業後の自立した生活を見据えたキャリア教育・就労支援の充実を図る。	・授業や校内、校外実習、各種検定、見学会への取り組み等を通して、児童・生徒一人ひとりの生活意欲や働く意欲を育てる。	39.6%	50.0%	10.4%	0.0%	0.0%	4.3	・新しい取り組みが多いが、その計画が職員間の共通理解が少し足りなかった部分もあるのではないかと。 ・進路の先生に丁寧に関わってもらうことで、保護者や実習先ともスムーズに話を進めることができた。 ・小学部にとつてのキャリア教育とは・・・学部の課題の一つだと思います。 ・就労に向けた実習ありきのプログラムが先走り、他の教育活動や行事の見直しやすりが不十分。3年間という短期間で企業就労を進めるには、精神的な成長や心の支えの必要性が配慮されていない。じっくり育ててやるスタンスも重要か。
8		7	保護者に信頼される適切な進路指導の充実を図る。	・PTA総会での進路説明会や進路相談会の開催、施設見学会、進路相談室の整備、活用、進路の掲示板設置、進路だより等を通して情報を発信する。	45.8%	39.6%	14.6%	0.0%	0.0%	4.3	・進路指導部長など保護者への説明など精力的に取り組まれていた。 ・進路情報を丁寧に下ろしてもらうことで保護者に信頼感を与えることができた。 ・小学部の保護者にとって進路は漠然としている。

No.	分掌	重点 目標	評価項目・達成目標	成果指標(具体的な達成目標)	5	4	3	2	1	評価 平均	備 考
9	保 健	1	健康な身体作りを推進する。	・保健だよりや掲示物、全校朝会での情報発信 ・身体測定、清潔検査、健康観察の徹底	38.8%	49.0%	12.2%	0.0%	0.0%	4.3	・児童の健康チェック(日々の健康観察及び肥満指導)が継続的に行えた。 ・保健室前の掲示物が毎回工夫されている。 ・保健部・看護師と連携し丁寧な健康観察、管理を提供することができた。 ・毎月の掲示物を楽しみにしています。 ・予防の観点から、「消毒」といった衛生面だけの指導、対応だけでなく、「免疫力を高める」手立てにも取り組んでいくべき。
10		3	性に関する指導を充実させる。	・職員向け性教育講習会の実施 ・年間指導計画の作成、資料の収集、実践の記録や資料をまとめる。	12.2%	44.9%	28.6%	14.3%	0.0%	3.6	・学部の授業に計画し、適切な時期に性教育を実施することができた。 ・授業などで性に関する教育が行われたが、全体的にみて、十分な指導ができたかどうかかわからない。 ・講習会に参加できなかったことと、性について考えさせる機会がなかった。 ・必要は感じていますが、計画通りの実践はできませんでした。各学部任せでは指導の充実は難しいと思います。 ・知識を高めるだけでなく、卒業後の社会生活を見込んでの具体的な性教育の推進が必要。そのための情報提供を積極的に行ってほしい。
11	研究・研修	2	特別支援教育の専門性を向上させる。	・各種研修案内を行い、研修参加を呼び掛ける。 ・校内夏季研修等、研修の計画、実施をする。	14.6%	58.3%	27.1%	0.0%	0.0%	3.9	・テーマを工夫し、様々な研修会を計画されていた。 ・各種研修会・講演等への案内を掲示できているが、出張参加は少なく学校としての取り組みは後退しているように思う。 ・各種研修会の広報がしっかりなされていたことと、夏休みの研修に参加できたから。
12		3	テーマに沿って、実践研究を深める。	・実践研究日を設定し、研究を行う。 ・児童生徒の実態から望ましい将来像を描き、授業研究を深める。	18.8%	62.5%	18.8%	0.0%	0.0%	4.0	・授業内容は皆で考えられたが、授業研究（授業後？）はなかなか時間が取れず、深めることはできなかったように思う。 ・定期的に研究日が設定され、毎回各グループでしっかり研究できた。 ・研修部の分かりやすい支持のもと、テーマに沿って研究を進めることができた。
13	地域支援	6	学校園所等、各機関におけるインクルーシブ教育の推進を図る。	・教育委員会、学校園所等からの要請により、各機関の教育活動の中で行えるインクルーシブ教育にかかる研修会を実施する。 ・オープンスクールや学校通信において特別支援教育についての理解や啓発を行う。	37.5%	52.1%	10.4%	0.0%	0.0%	4.3	・毎月の報告がきっちりなされており、校内外での活動を知ることができた。 ・オープンスクールにおいて本校のことについて発信できている。 ・日常的に本校の教育活動を地域に広く発信する取組が必要。そのためにも、教師全体と地域の人々とのつながりを持つ機会を増やしていく発想が必要か。
14		7	保健センターとの連携強化に努め早期支援の充実を図る。	・赤穂市保健センターでの発達相談を継続的にを行い、関係機関と連携し、早期からの支援につなげる。 ・相生市全保育所幼稚園への巡回相談での子どもの観察とコンサルテーション、及び親子教室の観察と助言を行う。	37.5%	50.0%	10.4%	2.1%	0.0%	4.2	・毎月の報告がきっちりなされており、校内外での活動を知ることができた。 ・特別支援学校のセンター的役割は地域の実情も踏まえながら実施することが望ましく、西播磨地域における本校取り組みはそのモデル的な役割を果たしており、一層深い取り組みを考える時期にさしかかっているが、他校との横並び評価で考える結果となったことは残念に思う。 ・相生のサテライトの評判の良さをよく耳にする。 ・各市で主体的に進めるべきことが多く含まれている。
15	自立活動 ・ 校内支援	7	関係機関との連携を校内に繋げ、全校的な情報の共有を図る。	・ケース会議による個別の支援や予防的な援助が必要な児童・生徒について部会で共通理解し、他学部への説明や支援の協力要請など、学部を超えた情報の共有を図る。 ・外部の専門家と連携し、作業療法や応用行動分析に基づく支援を校内に広める。 ・進路指導部や学年と協働して児童、生徒の居住地や進路先に関わる市町村及び相談機関との繋がりを作り、校内に情報提供を行う。 ・「自立活動の時間」の実践報告会を開き、自立活動の実践の質を高め、スキルの共有を図る。	29.2%	50.0%	18.8%	2.1%	0.0%	4.1	・援助が必要な児童・生徒に沿った援助や情報提供がなされていた。 ・大きな問題を抱える生徒の担任、学年への支援やアドバイスなど、学部としても非常にありがたかった。これまでの医ケア生徒や精神的な不調を抱える生徒に加えて、来年度に中学部から上がってくる特別な配慮の必要な女子生徒や、外部から入学してくるかもしれない全盲・自閉の生徒への対応準備など、今から準備開始するうえでも、このような支援体制は欠かせない。

No.	分掌	重点 目標	評価項目・達成目標	成果指標(具体的な達成目標)	5	4	3	2	1	評価 平均	備 考
16	管理情報	1	安全な学習・生活環境を確保するために施設・設備の点検を実施する。	・定期的、日常的に施設、設備の点検を実施し、安全上必要な箇所への早急な対応を行う。	23.4%	53.2%	23.4%	0.0%	0.0%	4.0	・毎月、安全点検を行った。 ・教材教具を事前周知なく突然に大量廃棄したり、長期間にわたりロッカーを廊下にて保管し続けるなど、計画性の弱さが課題と思う。 ・忘れる月があった。
17		1	資格支援ツールやICTの効果的な活用と管理	・PC、プリンター等の情報機器や設備の活用、保守管理を行う。	23.4%	51.1%	23.4%	2.1%	0.0%	4.0	・質問やトラブルに早急に対応してくれていた。 ・昨年度までは各教室にPCが配置され授業で使用できていたが、今年度は配当されなかったの で使用できなかった。目標と成果指標がかみ合っていないのでは？ ・苦手だから。
18	小学部	3	コミュニケーションの力を伸ばす。	・グループ学習の充実 ・児童の将来像から考えた目標 ・P D C A の継続	11.1%	77.8%	11.1%	0.0%	0.0%	4.0	・グループごとに児童に見合った内容で学習を展開させることができた。 ・充実したグループ学習だったと思います。ただ、全体的に見れば、児童個々の必要な内容を 考えてグループの編成ができたと思います。 ・授業内容等の振り返りについて、なかなか職員全体で話し合う時間を設けることが難しいの が現状。
19		5	本校児童にも交流相手にも充実感のある交流を行う。	・学習内容の相互理解 ・変化する地域、希望数等に対応した実施	14.8%	66.7%	18.5%	0.0%	0.0%	4.0	・お互いの児童が主体的に活動できる交流内容であった。 ・どの交流も内容がスッキリして児童にもわかりやすかった。居住地校交流の難しさを感じま す。 ・交流自体が減ったので、今後どのように地域や学校との交流をすすめていくか、他校も参考 にして考えていく必要がある。
20	中学部	3	生徒が主体的に学ぶ授業づくり	・グループ学習（国数、家庭科生単、作業）の取り 組み	35.7%	42.9%	21.4%	0.0%	0.0%	4.1	・どの授業も生徒が主体的に取り組む姿がみられ、充実していたと思うが、成果指標が具体的 な達成目標として考えれば、もうすこし明確にすれば良かったと思う。
21		5	学校間での共同学習や地域との交流を 推進する。	・カルロス・ガルバイ特別支援学校（エクアドル） とのアートマイル事業 ・坂越中学校、相生産業高校、生徒の居住地校、地 域の塩屋女性会との交流	46.4%	35.7%	17.9%	0.0%	0.0%	4.3	
22	高等部	2	生徒一人ひとりの障害特性を理解し、 学部で情報を共有し、系統的な教育を 行う。	・生徒一人ひとりの実態把握と共通理解に努め、情 報を共有する機会を増やす。	3.8%	57.7%	34.6%	3.8%	0.0%	3.6	・学部会や学年会だけでなく、毎朝の打ち合わせなど、生徒の共通理解ができた。 ・学年会および学部会を通して生徒の共通理解を図ることができた。 ・とにかく手が足りないときには、学年を超えて支援に入ろうとする姿勢が学部の中で高まっ てきている。
23		3	卒業後の生活を見据えた多様なニーズ に対応できる教育を充実させる。	・あらゆる機会を通じ、ライフキャリアを踏まえた カリキュラムの形成及びマネジメントを行う。	11.5%	61.5%	26.9%	0.0%	0.0%	3.8	・できるだけ多くのことを体験できるように、一人でできることが増えるように考えながら取 り組んだ。 ・各種コースの特色を生かし、個々のことを考えた授業を展開することができた。 ・多様なニーズに振り回される面もあり、やはり卒業後の生活の質を高められる取組に対し、 重点的に対応する絞り込みが必要だと反省する。
24	人 権	1	自分を大切にし、自他の違いを認め合 い、思いやりや助け合いの心を育成す る人権教育を推進する。	・人権に関する全体研修や学校生活全般を通して人 権に配慮した教育活動に取り組む。	8.7%	43.5%	45.7%	2.2%	0.0%	3.6	・限られた時間の中で工夫を凝らした研修会が行われた。 ・建前上の研修等は行われているが、実的な教師間の人権、児童・生徒への人権に関しては 意識が低いと感じる。 ・人権に関して配慮を欠いた指導を行ったこともある。 ・人権研修について、もう少し検討が必要。（現在の本校での問題などをもう少し見直す必要 がある。）内容についてはもちろんであるが、繰り返すことが大切だとも考えるので、回数に ついて1回で妥当なのかどうか。
25	交 流	5	学校、地域間交流でお互いに理解を深 める。	・交流相手との事前、事後の打ち合わせを密にす る。 ・事前学習を通して児童、生徒に見通しを持たせ る。	36.2%	46.8%	17.0%	0.0%	0.0%	4.2	・事前、事後の打ち合わせが丁寧に行われた。 ・毎回、楽しい計画で生徒は有意義な時間を体験できた。 ・学部として取り組んでおり、学部で評価している。 ・交流相手校のメリットはあるかも知れないが、本校児童生徒のメリットが見いだせない。 ・居住地校交流の難しさを感じました。 ・上郡高校、赤穂高校、赤穂高校定時制、関西福祉大学との交流が定着しつつあり、高校側の 受け止めや高校生自身の反応に積極性が感じられるようになってきたと思う。